

- 理事長挨拶、告知 1面
- 優秀論文賞を受賞して、告知、みんなでとったぞIF 2～3面
- 理事会ニュース(第1回臨時・第5回・第2回臨時)、胸部外科チーム医療最前線 4～5面
- 第49回日本心臓血管外科学会学術総会、第72回学術集会情報、ネクタイ販売、編集後記 6面

新年のご挨拶

日本胸部外科学会理事長 大北 裕



新年明けましておめでとうございます。

まず、最初に、第71回の学術集会が荒井裕国会長のもと、2018年10月3日から6日まで東京都で開催され、盛会裏に終了したことを報告申し上げます。随所に会長の創意・工夫が見て取れ、特にTechno-Academy、Surgical Colosseum、Gladiator Sessionなどの斬新な試みは大変好評でした。また、多くの同時通訳の方々を随所に配置して頂き、外国からのお客様と深い交流をいたしました。荒井会長はじめ、東京医科歯科大学の皆様は元より、会員諸兄に心から感謝いたします。また、本学術集会に対するアンケートも1,000人以上の方々からご返答頂き、今後の学術集会の運営に大いに役立たせて頂きます。本学術集会の出席者は3,516人を数え、過去最高を記録しました。

昨年度は5回の理事会、2回の臨時理事会を開催し、評議員会、学術総会などを通じて必要な定款、定款施行細則変更を行い、本会として大きな変革に着手しました。まず、従来のNPO法人からより自由度の高い社団法人に移行することを承認して頂きました。これにより定款の改定、収益事業などが簡便になりますが、一層の自律性を要求されます。今後5年以上かけて徐々にNPO法人から社団法人に移行する予定です。また、業務量の増加に則して理事数を20名から26名に増加して頂きました。

毎年3,000名以上の会員が集結する学術集会は本会運営の最重要事項と認識しています。昨年、学術集会

においては3分野会長制の導入を承認して頂き、2020年からはすべて選挙制で選出することになります。こうすることにより、心臓、呼吸器、食道各分野会員のより積極的な学術集会参加が望めます。しかしながら、昨年の評議員会の採決として100名の会員の反対票があったことを重視し、拙速とならないよう留意して事を進めさせて頂きます。現在、学術集会委員会で学術集会のあり方、すなわち運営方法、プログラム編成などにおいて、本会事務局、学術集会委員会のより強力な参画を企図しています。

平成30年度(7月31日まで)の本会の財政は収入37,479万円、経常費用37,763万円で、284万円の赤字会計となりましたが、正味財産変動は無く、健全でありました。教育事業では本年も、呼吸器外科・心臓血管外科サマースクール、PGC、医療安全講習会を開催予定です。従来からのJATS fellowship、研究助成(JATS Research Project Award)、JATS Academyなども継続して行う予定です。昨年度からの試みとしてAsian traveling fellowshipも募集いたします。

機関誌GTCSは、会員諸氏のご協力のお蔭で2019年度にIFが付与されることが決定しています。これに伴い、GTCSへの投稿数も増加しており、よりqualityの高い学術誌として発展が期待されます。臨時増刊として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”が2019年1月に発刊予定で、引き続き、“Non-small cell lung cancer”増刊号を刊行予定です。また、日本医科大学の新田隆

教授を中心に編成されていた日本胸部外科学会70周年記念誌が完成し、近日中に会員諸氏にお届けできる予定です。

新専門医制度制定における日本外科学会専門医制度は2018年4月に発足しましたが、二階部分のサブスペシャルティ構成については未知数です。今後、各分野のプログラムの整備、外科専門医取得に必要な症例数の不均衡も解消したいと考えています。

Annual reportについて2016年版が漸く刊行予定です。NCDとの連携で手間取りましたが、今後、2017年、2018年版は遅滞なく発行できると考えています。

国際委員会の取り組みとして、次世代会員の海外への短期留学支援“JATS fellowship”、“JATS/AATS Foundation fellowship”を一昨年から開始し、2年間に14名の会員に留学して頂き、その成果を学術集会、JATS news letterにて発表して頂きました。本年度も同様に募集をいたしますので、詳細はHPの募集要項を供覧のうえ、奮って御応募ください。

“地方会のあり方委員会”では、本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納の一本化を承認していただきました。一昨年度から、各地方会の発表について、心臓血管外科、呼吸器外科専門医制度申請・更新条件にクレジットを付けていただくことになりました。最終目標としては、本会と地方会の完全一体化ですが、各地方会独特の特色を生かすよう、円滑に進めてゆきたいと思えます。

事務検討事項として、2019年に



日本胸部外科学会 70 周年記念誌 表紙

現在、事務局が存在するテラル後楽ビルとの賃貸契約が更新を迎え、より一層激しい条件での契約を迫られそうです。時を同じくして、日本外科学会が現在の貿易センタービルの改築に伴い、移転を検討されています。本会としては基盤学会である日本外科学会と同じ場所に居を構えることにより、外科学会とより緊密な交流が得られ、経費節約にもつながると考えています。

2019年10月30日から第72回学術集会が京都で京都大学伊達洋至会長のもとで開催され、また、AATSとのjoint symposium開催も計画されています。プログラム案を拝見しますとauthenticな学術集会が古都で開催されることが覗かれ、大いに期待されることです。

これにて新年の挨拶とさせていただきます。本年も会員諸兄のご奮闘を願ってやみません。

今後の日本胸部外科学会

1 NPO 法人からより自由度の高い一般社団法人に移行

2 学術集会は3分野会長制を導入(2020年からは選挙制で選出予定)

機関誌 GTCS は 2019 年度に IF が付与されることが決定

3 臨時増刊号として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”, “Non-small cell lung cancer”を発行予定

皆で行こう地方会!

4 本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納を一本化
地方会発表は心臓血管外科・呼吸器外科専門医制度の新規申請、参加は更新申請のクレジットとしてカウントできるようになりました。(詳細 HP 参照)